

16	宅法二十四山分金法	高嶺浜川上 江□親□	袋	一	二八	二四・七×一六・八		写	P一〇まではサイズ(紙の)が違う。 和紙使用。 P一〇〜一二は洋紙にペン字。後に書かれた模様。 宅地に関する本(風水の本)。墨書き。
----	-----------	---------------	---	---	----	-----------	--	---	---

山里家文書(再録)

番号	名	称	員数	紙数	法量縦×横cm	料紙	形状	備考
一	和州氏家譜系図正統		一	三〇	二六・二×一九・八	楮紙	袋綴	久米具志川間切地頭仲村渠親雲上。系図・家譜とも七世まで。裏打ちあり
二	君南風野始相伝記		一	二三	二四・三×一九・三	藁紙	〃	乾隆八年裏打ちあり

与世永家文書(再録)

番号	名	称	員数	紙数	法量縦×横cm	料紙	形状	備考
一	地頭所諸地取立帳		一	一六	二四・〇×一八・五	芭蕉紙	袋綴	康熙三十年七月 久米具志川間切の惣地頭・脇地頭・夫地頭所の取立帳。按司作得・公儀上納・地頭作得・百姓仕得・里主所等を田方・畠方に分けて村ごとに記す。
二	久米具志川間切諸村田方取立帳		一	三五	二三・八×一八・二	〃	〃	久米具志川間切の上江洲・西銘・山里・仲村渠・仲地・大田・嘉手苅・兼城・具志川の各村について記述。
三	久米具志川間切嘉手苅村上江洲村高井上納差分帳		一	八	二四・〇×一八・四	芭蕉紙	袋綴	嘉手苅村と上江洲村の両村に大屋子地・掟地・百姓地等の石高・上納高について記述
四	久米具志川間切諸村畠方取納帳		一	一一	二四・〇×一八・五	〃	〃	上江洲・西目・山里・仲村渠・仲地・大田・嘉手苅・兼城・具志川の各村の畠方を記述

五	久米具志川仲里両間切中田畠取立帳	一	不明	二〇・〇×一五・〇	楮紙	切紙	嘉慶十年仲秋 久米両間切について、公儀上納、地頭作 得、里主所、おえか地を村毎の耕地面積 と貢租額を記述。大破
六	年貢諸納帳 但御蔵高	一	三四	一三・三×二〇・〇	〃	〃	田方代の上納、荒地出来、浮明出来、牛 馬出来、畠方代の上納、宮古島上納、八 重山島上納などについて記す。残欠
七	高三斗六升六合六勺六歲仕明請地帳	一	五	二四・二×一九・二	藁紙	袋綴	同治十三年 高所より久米具志川間切西銘の夫地頭嘉 手苧親雲上宛
八	同治十四年上国二付人々用物受取払帳	一	一七	一二・〇×三三・〇	芭蕉紙	横半折	物品の積入、受取、受払に関する与世永 尔也のメモ。
九	地租名寄帳	一	四三	二六・五×九・五	洋紙	切紙	明治三六年頃カ 字名、番地、段別、地価、地租を田、畑、 山林、原野の別に記入す。
十	御財制	一	六四	二六・七×一九・七	楮紙	袋綴	表題欠落。綴紐なし。御財制一(夫銭・ 請地夫分・諸細工并職人上納・宮古島上 納八重山島上納等、御財制二(出物・御 礼式・御祈願・御願物等)、例外之御入目 (御即位・冠船御渡米・官生上京等)に 分れる。
十一	王代記	一	一七	十三・五×三九・〇	楮紙	横半折	尚穆王、冊封使渡来までの記事。大破
十二	中山要案綱論 序	一	八	二六・六×二〇・〇	〃	袋綴	乾隆六〇年の写本。書簡の法、書札の礼 法等を封建的道徳観で記述。大破
十三	(王府規模)	一	五五	二六・五×一九・五	〃	〃	享保十二年の頃カ。綴紐なし。表紙・巻 末欠落、途中脱落。大破。各地の長さ・ 広さ、首里と各間切の距離、各島の石高、 王府機構の職掌等を記す
十四	(覚・手形集)	一	不明	十三・二×一九・五	〃	切紙	写し。大破
十五	口上控	一	四三	二三・〇×一七・五	芭蕉紙	袋綴	写し。大破
十六	(覚控)	一	二二	二四・〇×一八・七	〃	〃	朱書による加除訂正あり
十七	(口上覚控)	一	三〇	二七・〇×二〇・〇	楮紙	〃	右同。大破

十八	(真宗布教師渡米につき諸問切諸島への通達)	一	四	二三・五×一五・五	芭蕉紙	〃	〃	明治九年頃カ。日本より渡米する者が居るので、惣横目、横目にも嚴重申渡し、帰依しないよう高奉行から通達
十九	十一月仲里間切具志川間切漂着の唐人御届書写	一	二八	二五・五×一八・〇	〃	〃	〃	両間切在番から唐船漂着について御鎖側御取次衆への報告文写し。大破
二〇	瓦家中上葺並白壁塗例	一	七	二〇・〇×一九・〇	藁紙	〃	〃	上葺は瓦一六〇枚、中葺は二二〇枚(一坪例)で、上餅打、中餅打について記す
二一	萬算用帳	一	不明	一六・六×一四・六	楮紙	切紙	〃	道光十三年。表紙に「久米具志川間切脇文字西銘村、上江洲仁屋」とある。「起先之事」「萬買入之事」などがある。大破
二二	萬要記	一	八一	二六・二×一九・八	〃	袋綴	〃	綴代に「乾隆三拾年乙酉五月 於首里宿写之」とある。写本。大破
二三	不審書	一	五	二六・七×二〇・〇	楮紙	袋綴	〃	表紙に「乾隆六拾丙辰年孟夏吉且写之」とあり。問答形式で記され答えは朱書する。写本。大破
二四	球陽書礼 全	一	一三	二六・九×二〇・三	〃	〃	〃	表紙に「乾隆四十三年戊戌閏六月十一日写之」とあり。写本。大破
二五	(書 礼)	一	七五	二五・一×二〇・一	藁紙	〃	〃	書状の礼式を書いたもの。表欠。写本。大破
二六	(書状案文)	一	七	二六・五×二〇・〇	楮紙	〃	〃	表欠。大破
二七	(大星由良之介書簡)	一	六	二七・八×二四六・〇	〃	続紙	〃	写し。大破
二八	日撰吉凶口	一	二六	二〇・三×一三・三	〃	切紙	〃	占書、吉凶を記したものを。大破
二九	御日常の事	一	一二	〃	〃	袋綴	〃	写し。
三〇	(養生書)	一	四〇	二三・三×一八・〇	芭蕉紙	〃	〃	写本。大破
三一	大医元順痲瘡療法方秋伝書	一	一二	二四・〇×一八・五	〃	〃	〃	嘉慶二十年五月
三二	渡嘉敷親雲上痲瘡伝	一	四五	二三・〇×十七・三	〃	〃	〃	道光十九年九月。大破
三三	和解陰隲訓	一	七	二六・八×二〇・〇	楮紙	〃	〃	中国の「陰隲訓」の和解。道德書
三四	(教訓書)	一	二三	二六・八×二〇・三	〃	〃	〃	綴紐なし。
三五	初登山手習教訓書	一	三	二六・二×一九・五	〃	〃	〃	写し。大破